

令和5年度（2023年度）第1回吹田市立青少年クリエイティブセンター運営審議会議事録

1 日 時 令和5年（2023年）7月10日（月）午後6時30分から午後7時30分

2 場 所 青少年クリエイティブセンター 視聴覚室

3 出席者

(1)委員 狩俣 正雄（委員長）、上坂 純郎（副委員長）、酒井 睦美、清水 厚彦、
郷 文子、大原 猛、大橋 善正、田村 尚俊、大川 賢司、光田 修平

(2)事務局 道場（地域教育部長）、大川（青少年室長）、
池原（青少年クリエイティブセンター館長）、曾我（同参事）、松本（同主幹）、
西田（同主査）、井崎（同主査）、大黒（同主任）

4 傍聴者 なし

5 開 会

(1)委嘱状交付

(2)地域教育部長挨拶

(3)事務局の紹介

6 議 題

(1)議長及び副議長の選出

(2)令和4年度（2022年度）利用状況・事業報告

(3)令和4年度（2022年度）事業総括

(4)吹田市立青少年クリエイティブセンターニーズ調査について

(5)その他

7 審議の概要

○ 配付資料により事務局から説明を行った。委員から出された意見・質問の概要は以下のとおり。

委 員 運動広場の利用者について、昨年8月実施のサマーフェスタの参加者は含まれているか。

事務局 前年と比較しやすいサマーフェスタ参加者を計上していないものと計上したものの両方を把握している。

委 員 昨年度は利用者数が増えているが、コロナ禍以降で初めて増加した理由は何か。

事務局 コロナウイルス感染症対策に関して、行動制限が一定緩和された中で、休館や事業中止ではなく、縮小等はあるながらも実施をするといったポジティブな対応を行えたことで利用者増につながったと考えている。

委 員 昨年度から新たに実施された親子体験活動について、応募も多く人気があって活性化されているように思われるが、この成果をどう考えているか。

また、中学生以上の利用者が少ないことについて、居場所づくりの観点から新たな展開は考えているか。

事務局 親子での体験活動に力を入れたことについては、子育ての楽しさを親が改めて

実感すること、また、親同士の口コミによって当センターの認知度を上げて欲しいといった狙いがあった。好評であったため、今後も続けていきたい。

中学生以上の利用者について、活動範囲が広がり多くの選択肢がある中でも居場所として選んでもらえる施設となるよう取組を検討していく。

委員 広報誌の発行及び配布について、近年のペーパーレス推進や職員の負担軽減等の観点から電子化を検討してはどうか。

事務局 現在はホームページ上で広報誌を公開しているが、市内児童への電子媒体を使った広報紙の配布については、学校教育部局との調整が必要になる。引き続きSDGsや働き方改革の観点も踏まえて、時代に即した方法を検討していく。

委員 昨今、社会問題となっているヤングケアラーについて、センターとして何か取組を検討しているか。

事務局 現在、児童部が中心となり、全庁的に子供の貧困対策へ取組んでおり、その中で当センターとしては、子供への居場所提供の観点から、自習室や給食室を使った自主学習の場を周知広報している。今後も子供の貧困対策の取組へ参画、提案をしていく。

委員 ニーズ調査について、どのような形でアンケートを取っていくのか。

事務局 市内の青少年施設利用者を中心に意見を聞きたいため、当センター及び夢つながり未来館にアンケート用紙を配架する。また、ホームページでも回答できるように公開する。

委員 アンケートを取っていることの周知が必要だと考えるが配架するのみか。

事務局 施設への配架とホームページでの広報を考えている。

委員 アンケートの回答数が少なければ、回答内容にも偏りが生じると考えられるため、利用者への声掛けを行う等、積極的なアンケートの取り方を検討して欲しい。

事務局 利用者に積極的に声掛けを行う、事業のアンケート実施時に一緒に配る等、回答数を増やす努力をしていく。また、夢つながり未来館においても対応を依頼する。

委員 先ほどの広報紙の件やアンケートについて、GIGA スクール端末を利用出来ないのか。

事務局 GIGA スクール端末を使った学校外施設でのイベント周知や事業の広報については基本的に認められないため、現時点では困難である。